東北大学
TOHOKU UNIVERSITY

Press Release

東北医科薬科大学

2018 年 11 月 5 日

報道機関　各位

国立大学法人　東北大学大学院医学系研究科
学校法人　東北医科薬科大学

妊娠期間中の飲酒の継続は
妊娠高血圧症候群リスクを高める

妊娠が分かった段階で飲酒しないことが重要

【発表のポイント】

- 妊娠初期、妊娠中後期の段階でお酒を「現在も飲んでいる」と回答している妊婦は全妊婦の 9.5%、2.6%と決して少なくはなかった。
- 毎日日本酒 1 合またはビール大瓶 1 本程度の飲酒を行った場合、飲酒をしていない妊婦に比較して妊娠高血圧症候群のリスクは 3.45 倍と高かった。
- 「以前は飲んでいたが止めた」と回答した妊婦では妊娠高血圧症候群のリスクは 0.90 倍と低く、妊娠が分かった段階で飲酒しないことが重要と考えられた。

【研究概要】

東北大学大学院医学系研究科産科学婦人科学分野（現：東北大学病院周産母子センター）の岩間憲之（いわま　のりゆき）助教、東北医科薬科大学医学部衛生学・公衆衛生学教室目時弘仁（めとき　ひろひと）教授らのグループは、妊婦における飲酒や禁酒が妊娠高血圧症候群リスクに及ぼす影響を明らかにしました。本研究は、妊婦における禁酒の重要性を妊娠高血圧症候群の面から明らかにした初めての報告です。

本研究成果は、2018 年 11 月 7 日に Hypertension Research 誌（電子版）に掲載されます。

本研究は、環境省が実施しているエコチル調査[注1]の結果を用いて行われましたが、本研究は研究者の責任のよって行われているもので、政府の公的見解を示したものではありません。

【研究内容】

妊娠中の飲酒は周産期[注2]の子どもの合併症と関連することが知られており、特に多量飲酒では胎児アルコール症候群や低出生体重、早産、児の神経発達障害をもたらします。しかしその一方で、妊娠中の飲酒の母体に対する影響についてはあまり知られていませんでした。

妊娠高血圧症候群は妊婦の 5～10%弱に生じる病気で、妊婦自身や児の健康にかかわることが知られています。

本研究では、2011 年から 2014 年にかけて日本で行われたエコチル調査の全国データ 76,940 人を用い、妊娠中の飲酒が妊娠高血圧症候群に及ぼす影響について調べました。

妊娠初期の段階で、お酒について「現在も飲んでいる」と回答した妊婦さんは 7,323 人（全妊婦の 9.5%）、「以前は飲んでいたが止めた」と回答した妊婦さんは 44,253 人（全妊婦の 57.5%）でした（図 1）。妊娠中後期の段階でお酒について、「以前は飲んでいたが、今回の妊娠に気づいて止めた」と答えた妊婦さんは 38,107 人で妊婦さん全体の 49.5%でした。一方で、「現在も飲んでいると答えた妊婦さんは 1,965 人で妊婦全体の 2.6%でした。毎日日本酒 1 合（180ml）またはビール大瓶 1 本（633ml）程度の飲酒を行った場合 1 週間にアルコール量換算で週に 150g になります。このような量のアルコールを妊娠中後期に「現在も飲んでいる」と答えた妊婦さんは 58 人でした。

週に 150g 以上の飲酒を継続している妊婦さんでは、飲酒をしていない妊婦さんに比較して、妊娠高血圧症候群へのなりやすさのリスクが明らかに高くなっていました。このリスクは、妊娠前の肥満や既往歴、喫煙状況、教育歴や収入などの社会経済要因に影響を受けていることが明らかとなっていますが、このような要因を加味して検討してもなお 3.45 倍（95%信頼区間 1.32-9.05）と明らかに飲酒は妊娠高血圧症候群と関連していました（図 2）。

一方、妊娠初期の段階で「以前は飲んでいたが止めた」と答えた妊婦さんでは各種要因で補正後も妊娠高血圧症候群のリスクは 0.90 倍（95%信頼区間 0.82-0.99）と低くなっていました。中でも、以前は飲んでいたが、今回の妊娠に気づいて止めた妊婦さんで 0.90 倍（95%信頼区間 0.82-0.99）と妊娠高血圧症候群が低いことと明らかに関連していました（図 3）。

本研究結果から、妊娠中の飲酒は児へ及ぼす健康影響のみならず、妊婦自身の合併症を引き起こすこと、飲酒をしていた場合には早期に止めることは妊娠高血圧症候群のリスクを減らすことが明らかとなりました。

したがって、妊娠が分かった段階で飲酒しないように努めることが重要で、医療従事者や保健指導従事者は飲酒を止められているかどうか確認をすることが重要であると考えられました。

エコチル調査では引き続き、子どもの発育や健康に影響を与える化学物質等

の環境要因を明らかとするべく調査を続けていきます。調査に協力いただいた妊婦さんとお子さんをはじめとして、参加者の皆様に深く感謝申し上げますとともに、引き続きご協力をお願い申し上げます。

【用語説明】

注1.　エコチル調査

　子どもの健康と環境に関する全国調査は、環境が子どもの健康にどのように影響するのかを明らかにし、「子どもたちが安心して健やかに育つ環境を作る」ことを目的に平成 22 年度(2010 年度)に開始された大規模かつ長期に渡る疫学調査です。妊娠期の母親の体内にいる胎児期から出生後の子どもが 13 歳になるまでの健康状態や生活習慣を平成 44 年度(2032 年度)まで追跡して調べることとしています。

　エコチル調査は、国立環境研究所に研究の中心機関としてコアセンターを設置し、国立成育医療研究センターに医療面からサポートを受けるためにメディカルサポートセンターを設置し、また、日本の各地域で調査を行うために公募で選定された 15 の大学に調査の拠点となるユニットセンターを設置し、環境省と共に各関係機関が共同して調査を行っています。

注2.　周産期

　妊娠 22 週から出生後 7 日未満の出産前後の期間。

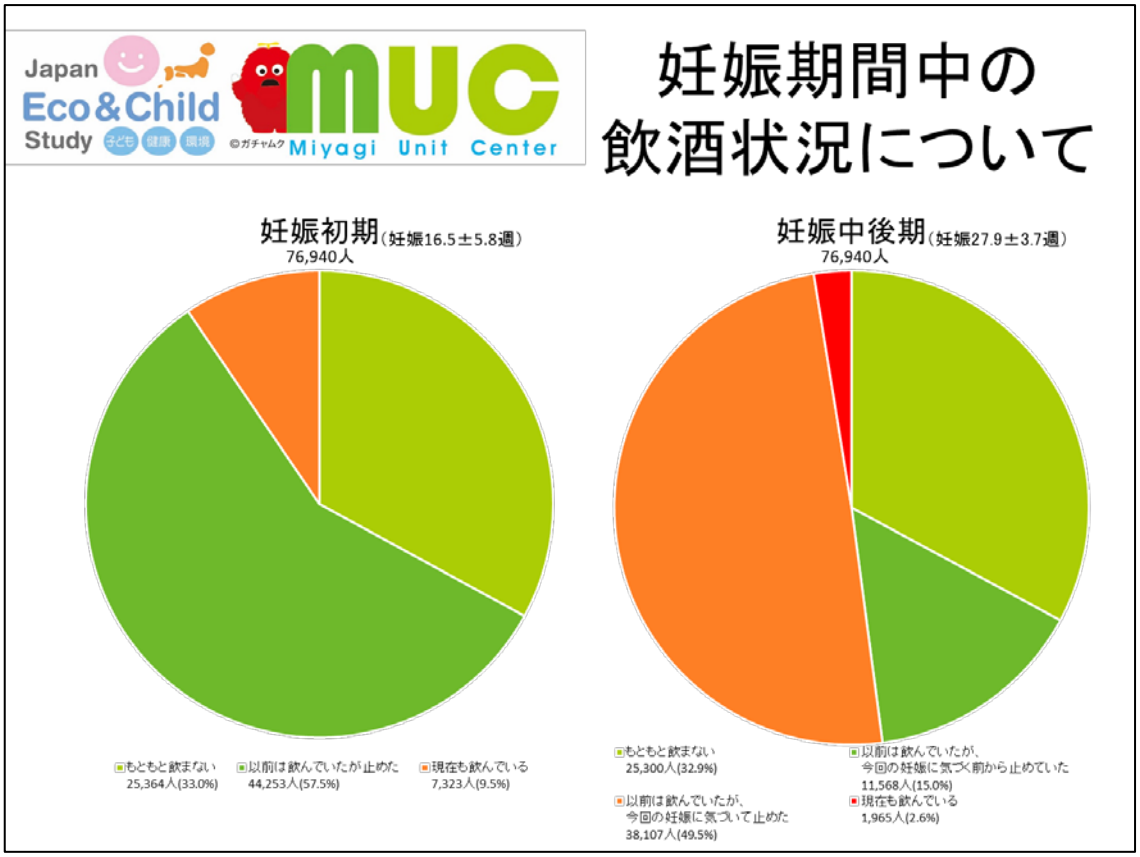

図 1. 妊娠期間中の飲酒状況について

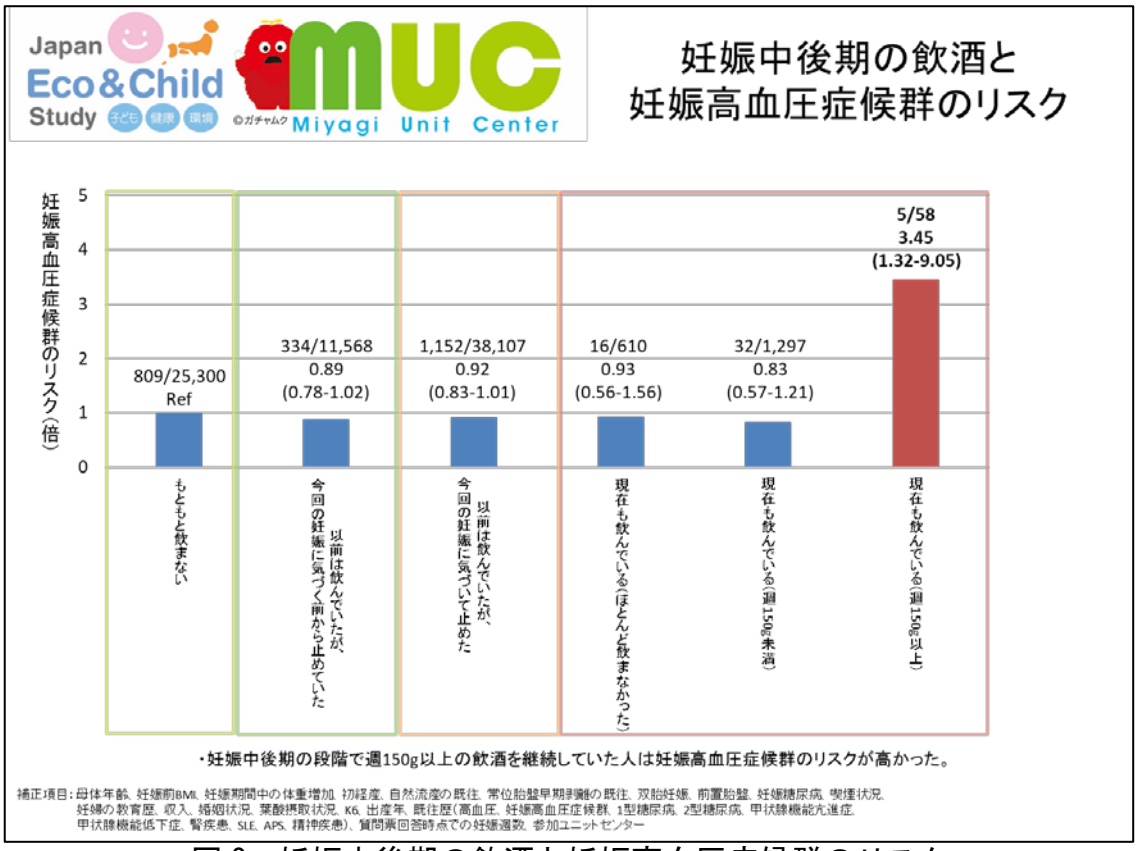

図 2. 妊娠中後期の飲酒と妊娠高血圧症候群のリスク

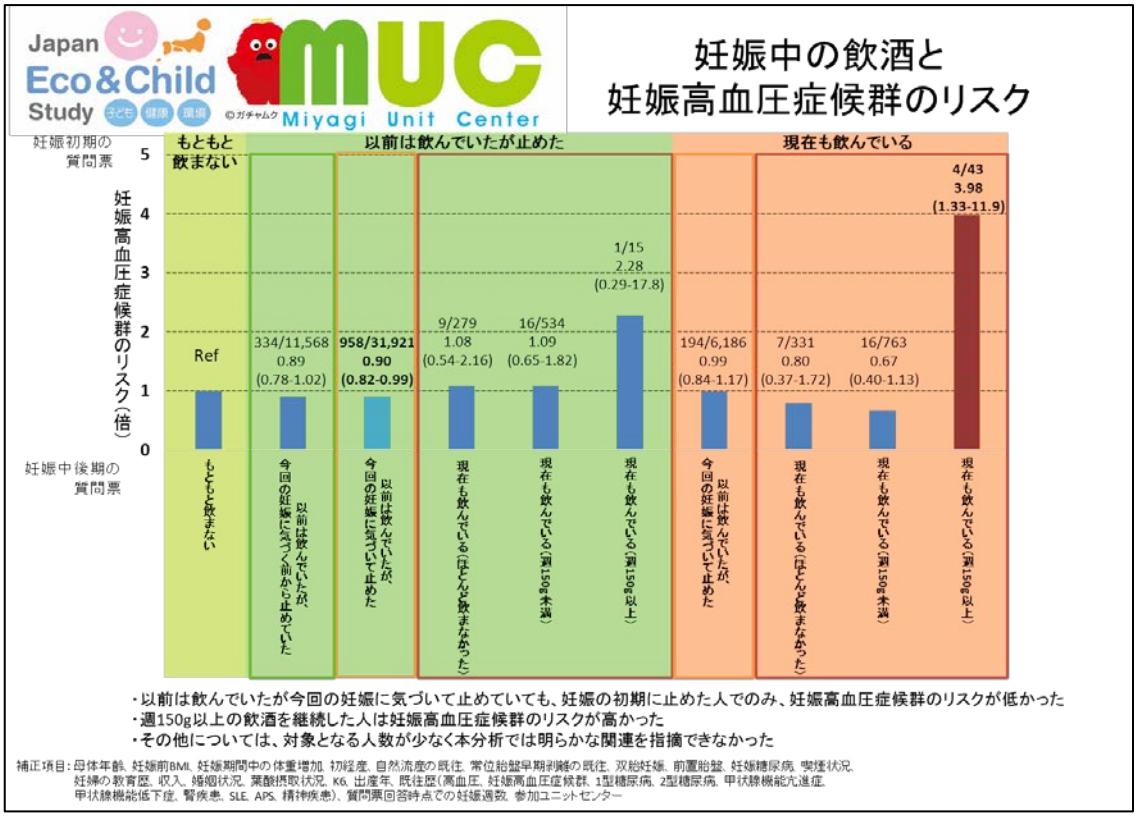

図 3. 妊娠中の飲酒と妊娠高血圧症候群のリスク

【論文題目】

English Title: Association between alcohol consumption during pregnancy and hypertensive disorders of pregnancy in Japan: the Japan Environment and Children's study (JECS).

Authors: Noriyuki Iwama, Hirohito Metoki, Hidekazu Nishigori, Satoshi Mizuno, Fumiaki Takahashi, Kosuke Tanaka, Zen Watanabe, Masatoshi Saito, Kasumi Sakurai, Mami Ishikuro, Taku Obara, Nozomi Tatsuta, Ichiko Nishijima, Takashi Sugiyama, Ikuma Fujiwara, Shinichi Kuriyama, Takahiro Arima, Kunihiko Nakai, Nobuo Yaegashi, and the Japan Environment & Children's Study Group

タイトル：「妊娠中のアルコール摂取と妊娠高血圧症候群の関連:エコチル調査」

著者名：岩間憲之、目時弘仁、西郡秀和、水野聖士、高橋史朗、田中宏典、渡邉善、齋藤昌利、櫻井香澄、石黒真美、小原拓、龍田希、西島維知子、杉山隆、藤原幾磨、栗山進一、有馬隆博、仲井邦彦、八重樫伸生、エコチル調査グループ

掲載誌名: Hypertension Research（電子版）
doi: 10.1038/s41440-018-0124-3.

【お問い合わせ先】

（研究に関すること）

東北大学大学院医学系研究科産科学婦人科学分野
（現：東北大学病院周産母子センター）
助教　岩間　憲之（いわま　のりゆき）
電話番号:　022-717-7251
E メール:　noriyuki.iwama@med.tohoku.ac.jp
東北医科薬科大学医学部衛生学・公衆衛生学教室
教授　目時　弘仁（めとき　ひろひと）
電話番号: 022-290-8727
E メール:　hmetoki@tohoku-mpu.ac.jp

（取材に関すること）

東北大学大学院医学系研究科・医学部広報室
電話番号:　022-717-7891
FAX 番号:　022-717-8187
E メール:　pr-office@med.tohoku.ac.jp